

令和4年度 渋谷区理科部 活動報告

渋谷区立小学校理科研究会

1 前年度の研究

(1) 研究主題について

令和三年度の研究主題を「育てよう 資質・能力 ～資質・能力を見取る評価の仕方～」とし、単元で育む資質・能力とその系統性や関連性、新教材等の研究を進めてきた。研究主題の「資質・能力」を生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」と捉え、さらに理科の学びの基盤となる問題解決の力や活用力、言語力、情報収集・情報活用力等も含めると考えた。単元の特性を踏まえて「単元の終わりにどのような児童の姿が見られることを目指すのか」を具体的に示すことにした。さらに、指導案の中でその時間の「重点とする資質・能力」「B 評価の児童の姿」「A 評価の児童の姿」「B 評価に達しない児童への支援」を示すことで、児童一人一人に応じた指導や支援ができ、ねらいとする「資質・能力」を育成することができると考え、授業づくりを行った。

2 今年度の研究

(1) 研究主題について

「育てよう 資質・能力」～生活につながる学びを育てる指導の工夫～(中学年分科会)
～学んだ知をつなげて、伝え合う子の育成～(高学年分科会)

(2) 研究の方向性

本研究では、研究主題の「資質・能力」を生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」と捉え、さらに理科の学びの基盤となる問題解決の力や活用力、言語力、情報収集・情報活用力等も含めることとした。

渋谷区の児童の実態として、生活の中での事象と理科の学習が別のものとして認識されている場合が多く見られる。また、これまで理科学習の系統的な学習設計や他教科との系統性を意識した指導など、学習どうしをつなげる研究を行ってきたが、理科と児童の生活をつなげることを意識した指導は十分とは言い難い。また、PISA2018の調査結果を受けて、文科省から理科教育の充実について「理科教育における日常生活や社会との関連を重視する活動、実験、観察など科学的に探究する活動の充実」と提言があった。

これらのことを踏まえて、中学年の研究副主題を「生活につながる学びを育てる指導の工夫」とした。ここでの「生活につながる」とは、日常生活では意識していない事象が理科学習を行うことで仕組みに気付いたり、これまでバラバラだった理科と生活がつながり、生活の中で理科の学習が生かされたり、理科学的な見方や考え方が生活の自然に実践できるようになることをねらいとしている。また、「学び」とは、単に知識・技能の習得だけではなく、既存の知識から新しい知識を発見したり、創造したりするプロセス(学び方)を意味する。そのために、ICTの活用や教材の工夫、理科の見方・考え方を働かせた問題解決、対話による思考の整理ができるような授業の設計を行っていくことが重要と考える。

(3) 研究計画

日程	内容	会場・授業者等
4月20日	自己紹介 役割分担 年間計画	会場：神宮前小学校
5月18日	今年度の研究テーマについて	司会 記録 (会場：神宮前小)
6月15日	分科会 講演会	講師：公益財団法人 河川財団 河川総合研究所 所長 藤田 光一 先生
8月26日	分科会	

9月14日	研究授業6年 海老澤賢（中幡小） 「月の形と太陽」	講師：横浜国立大学名誉教授 森本信也先生
10月19日	研究授業3年 鈴木裕二（富谷小） 「音の性質」	講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官・学力調査官 有本 淳先生 （会場：富ヶ谷小学校） 授業者：鈴木 裕二
11月9日	研究授業6年大関 和樹（臨川小） 「てこのはたらき」	講師：国立教育政策研究所名誉所員 客員研究員 猿田祐嗣先生（会場：臨川小学校）
12月7日	分科会	
1月18日	今年度の研究の総括	講師：手代木校長先生（会場：神宮前小）
2月22日	渋教研発表	（会場：代々木山谷小？ Team s ?）